

集落支援員だより

第40号

発行者 東和地域集落支援員

連絡先 66-2490

発行日 令和6年2月21日(水)



集落支援員協働事業 地域づくり講演会開催

集落・地域活性化とは、
新たな人と出会うことで生まれる新しい化学反応

地域づくりの第一歩は、集まる場をもつところから！



あいさつ西谷区長 佐藤進一さん

2月10日(土)東和文化センターにおいて、西谷区主催による地域づくり講演会『小規模自治体にみる人口動態の新展開と農村地域づくりの方向性』が開催された。約100名の方が、これからの東和地域活性化の方向性を探り、集落づくりのヒントを得ようと集まった。

講師 日本大学経済学部教授 宮地忠幸先生

専門分野は、経済地理学、中山間地域論。東和地域のかかわりは、1997年の大学院生時代に有機農業の調査に始まる。2009年には「国土館大学西谷学校」を立上げ、10年間にわたり、ゼミ生とともに農業・農村体験で関わる。現任校のゼミでは、年間研究と地域づくり参画プロジェクト(NUECO小さな村応援し隊など)を通して、現場で地域問題の実態や地域づくりの課題を学んでいる。



講師 宮地忠幸先生

【主な講演内容】

小規模自治体の人口動態とその特徴

人口減少は避けがたい方向性ではある。しかし悲観ばかりする必要はない。人口1000人未満の自治体の中にも、パワーのある自治体がある。人口規模が小さい自治体ほど老年人口の増加がピークアウトし、高齢化率が下がりがつつある。その背景には、老年人口の減少とともに若い世代が転入してきていることも関係していると考えられる(例えば、地域おこし協力隊員など)。ここに地方における人口動態の新展開をみてとれる。

なぜ地域づくりが必要か

集落を基盤とする地域社会、行政それぞれの立場で多数の課題が山積している。そうしたなかで行政だけに頼った地域経営(ガバメント)には限界がある。地域住民、行政、経済団体など多様な主体の連携による地域づくり(ガバナンス)の方向性が問われている。地域の事情に沿って、地域の持続性を高めるために何が必要か考えていくことが求められている。



講演を聞く参加者

小さな村の挑戦:「小さな村g7(スモール・ジー・セブン)サミット」

NPO法人小さな村総合研究所の小村幸司氏は、人口規模の小さい自治体同士で交流することを目的に2016年から「小さな村g7サミット」を開催し始めた。小さい村の取り組みの方が訴求力大きい。サミットは、多様な主体が参加して各地域での活動が発表され、熱い懇親会も行われる。サミットの意義は、情報の交換と共有(≒学びあい)を通して、地域の価値の発見と共有、発信する場となっている点にある。



主催団体 西谷区のみなさん

農村地域づくりの方向性

地域の活性化とは、異質なものが出会うことで生まれる新しい化学反応であるとされる。まずは集落などで集まる場をつくりたい。そこには、男性だけではなくお母さんたちや子どもたち、新住民など多様なメンバーで集まり、お互いの意見を尊重しながらみんなで楽しい構想を考える。地域づくりへのまなざしは温度差があるので、モチベーションを高めるために、共通の関心事を見つけ出したい。

運動とおしゃべり大好きな仲間たち

～元気に活動している高齢者団体紹介～

《会員募集中!!》

戸沢グラウンドゴルフクラブ



戸沢グラウンドゴルフクラブの皆さん



おしゃべりも楽しい

みんな元気、集中力を高めることも元気につなぐ。家にいるから、運動できているのを楽しみに参加している。友達と話をしたり、笑い話も聞ける。楽しい。

名称: 戸沢グラウンドゴルフクラブ
代表: 紺野岩男 会員40名
活動: 毎週水曜日の午前中
旧針道小学校グラウンド
12月から「すぱーく東和」使用
連絡先: 紺野岩男 (☎46-2646)



グラウンドゴルフを楽しむ様子

東和地区ゲートボール協会



東和地区ゲートボール協会の皆さん



ベテランのお二人
左: 穴戸善丈さん 右: 大槻幸一さん

各地区的ゲートボール人口が少なく、東和地区をまとめる形で、新たに発足した。1月に足利市で行われたチームプレイルームで、頭を使うのもいい。活性化にもつながる。家で何もしないでいるよりも、楽しみながら活動している。

名称: 東和地区ゲートボール協会
代表: 斎藤進 会員25名
活動: 毎週月曜日と金曜日の午前中
「すぱーく東和」使用
連絡先: 斎藤達雄 (☎090-6030-3276)



最高齢の仲野さん(95歳)

針道地区グラウンドゴルフクラブ



針道地区グラウンドゴルフクラブの皆さん



真剣に練習

1週間に1回集まって、身体を動かすのが楽しみ。グラウンドゴルフは、毎回コンスタントに遊ばないから、毎回来てほしい。

名称: 針道グラウンドゴルフクラブ
代表: 斎藤菊男 会員39人
活動: 夏(4~11月)水・土曜日
針道小グラウンド
冬土曜日 午前中 すぱーく東和
連絡先: 斎藤菊男 (☎46-2839)



練習の様子

木幡グラウンドゴルフ愛好会



会員が減っていること、会員募集する人が一人探すように話した。話を聞いて、会員と親しむと思えばいい。少しづつ入会希望の話がきている。



忙しい時は無理せず、出られるときだけ出れば大丈夫という声かけも大事である。

名称: 木幡グラウンドゴルフ愛好会
代表: 高槻徳夫 会員39人
活動: 毎週水・土曜日 13:30~
水舟グラウンド
連絡先: 高槻徳夫 (☎46-2949)

～冬の食の手仕事～



杉内道子さん (針道)

大根葉の佃煮

生の大根の葉を細かく切って、みりんとめんつゆを入れ、強火で煮汁がなくなるまで煮る。水分がなくなったら、かつお節とちりめんじゃこを入れて混ぜ、少し煮て出来上がり。このレシピは友人の



大根葉の佃煮



大根の葉



杉内正子さんに教えてもらったもの。美味しかったからつくって、娘にも、餅と一緒に送ったりしているということがある。(取材：引地)

今年は、ゆずと柿がいっぱいできた。ゆず化粧水は、ゆずの種を干して、20粒くらいと香りを出すのにローズマリーを入れ、浸るくらい日本酒を入れて出来上がり。東和公民館の「ハーブ教室」で教えてもらった。



菊地作子さん (針道)

ゆずの化粧水、唐辛子、芋がらなど



干した唐辛子と大根葉



ゆず化粧水とゆずジャム



干した唐辛子

「唐辛子」は乾燥させ、細かく切って、白菜漬けや野菜炒め、ゴボウ炒りなどに入れて使っている。今年は里いもはあまり良くなかったが、茎は良く育ったので芋がらにした。乾燥した「芋がら」は、ポットのお湯をかけることで柔らかくなるので、お汁や炒め物に使っている。野菜は何でも乾燥させるといい、ビタミン等の栄養価が増す。その他に、野菜の保存方法などいろいろお話を聞かせてもらった。(取材：引地)

普段のつながりが助け合いにつながる

～早めの避難が大事だと思った!～

針道4区防災教室



マイ避難シートの作成

針道4区では、17日(水)集会所において、「地域・家族で話し合おう!防災のこ」と題し、懇談会を開催した。非常食試食体験後、福島県マイ避難推進員の川島氏からは、パワーポイントを使い、震度7の揺れを体験している様子や近年の災害の状況の説明があった。また、避難先で一番多いのは、「親戚・知人宅」(35%)という統計がでているので日頃から親戚と「何かあったらよろしくね」と話しておくことが大事である。不安な時は周りの様子を見て避難する「避難スイッチ」があるのが大事と、災害時に備えてのお話があった。参加者からは、「災害時、どの時点で避難しなくてはならないか



非常足のアルファ米の試食



県防災士からパワーポイントを使った説明

考えさせられた。高齢者と子どもがいるので車での避難となると早めの避難が大事だと思つた。「自分の家は大丈夫と思つていたが、不安になった。」などの感想が聞かれた。(取材：引地)

シリーズ ～さわやかな風～

若い人が楽しくやれる仕事づくりをする



ウィルリバースのSTAFF



菅野大志さん (木幡)

菅野さんは、昨年5月に「ビッグウィル」を立ち上げ、不用品回収からハウスクリーニング、リサイクル販売をする会社を立ち上げた。きっかけは、それまで携わっていた大工の仕事で古い家から出る大量の不用品を目にしてきたことや、姉がリユース品を流通させるEC販売業に深く関わっていたことにあった。菅野さんは、これらを同じサイクルに組み込み自社で一式請け負うことで、依頼者には作業を、購入者には商品をより安く提供できるメリットがあると考えた。さらに、

呉服屋の友人が店をたたむ話を聞き、代々受け継いだノウハウや地域の繋がりも活かし、古着が店内を魅了する、ビンテージショップ「ウィルリバース」も立ち上がった。ビッグウィル代表の菅野さんは、「自分たちは、中古・ビンテージといったものを流通に力を入れている。これからの若い人達にその価値や感覚を受け継いでいきたいし、リサイクルという仕組みがもっと身近なものになってほしいと思います。また、SNSなど積極的に活用することで様々な地域・年代のお客様を呼びこみ、ひいては二本松市の活気に



ビッグウィルのSTAFF

繋がればいいなと思つています。ここまで紆余曲折ありましたが、これまでに関わった方々とは今後もお仕事させてもらっていますし、繋がりを大切にしていきたい。繋がりが多くなったと思つても、一方で、この業界に壁を感じる方が多いのも事実で、どうしたらより信頼関係を築けるかというの、これからの課題だと思つています。」と話してくれた。(取材：引地)

和気あいあいと新年会

いきいきサロン「五反田健やかクラブ」



五反田健やかクラブの皆さん

いきいきサロン「五反田健やかクラブ」の新年会に訪問した。和気あいあいとした弾み、年末年始から正月の過ごし方の話になり、各家庭夫々に伝統を守りながらお正月行事をされていることに、驚きながら聴かせてもらった。また、美味しい漬物もいただいたので紹介します。

干し柿入りなます



干し柿入りなます



久野美代子さん (針道)

「たくあん」の甘味は、サラメを使用している。今日は、いきいきサロンがあるので、みんなに食べてほしいと思つてきた。



生漬けたくあん

生漬けたくあん

毎年干柿をつくっている。そのまま食べても食べないので、好きな時に食べられるよう、切って冷凍しておく。

干し柿なますは、大根と人参を線切りにし、塩をまぶして水分を取り、酢と砂糖を煮たててかけ、干し柿を混ぜれば出来上がり。夫と二人暮らしだったが、東京にいる孫が福島の大学に入り、ここから通っていると嬉しそう。(取材：引地)